

## 研修報告 B班2グループ

### 1. 気づき、発見

イントロダクション、情報提供、全体討議をうけて始まった「気づき、発見の時間」では、事務職員による大学内への働きかけについての意見が多く集まった。特に吉田浩史氏からお話のあった京都産業大学の学修支援システム導入の実例については、情報センター（センター長も事務職員）が主体的に動き、システムの導入・活用をリードしているという点が注目された。班員の所属する大学でも教職協働といわれながらも教学面が強く、事務職員の力が弱いという点も、なかなか京都産業大学のような動きができないという実情があった。また事務職員が今回のような研修に参加しても報告書を一枚あげるだけであり、何かプロジェクトを起こすというわけでもなく実際の行動が伴っていないという反省点もあげられた。何をやるにしても事務職員の意識改革は必要であるという点で班員の意見は一致した。

### 2. テーマ設定

#### (1) 大学の役割とは 「各大学の特色を生かした魅力ある人材作りのために」

「大学の役割」については「地域貢献」や「双方向の情報伝達」「グローバル化」「学生の質保証」「ユニバーシティ・アイデンティティの確立」といったさまざまな意見が出た。各種意見の共通点などを洗い出し、より根本的な大学の役割である「魅力ある人材作り」という点について考えを深めることとした。すべての大学が同一の「魅力ある人材」を育成する必要はなく、またそうすることによって社会の多様性が損なわれる。私立大学の存在意義である建学の精神は各大学によって異なるものであり、そこから生まれるディプロマ・ポリシーや人材育成方針も当然異なる、ということを確認した。アドバイザーからの助言もあり、B2班の討議テーマは「各大学の特色を生かした魅力ある人材作りのために」に決定した。

#### (2) 「魅力ある人材」とは

次に、各大学の特色を生かすとしても、「魅力ある人材」が最低限持っていなければならない能力とはなんだろうか、ということを確認した。これまでの大学教育の反省点として繰り返し挙げられるのが、知識偏重、座学中心、といったものである。対して、社会が求めているのは目的意識を持ち、自ら課題を発見しそれに取り組むことのできる課題解決能力を持った人材である、と考えた。

### 3. 「各大学の特色を生かした魅力ある人材作り」を行うには

#### (1) 現状と問題点

課題解決能力を持った人材を育成するためには、PBL (Problem Based Learning) などの授業実施が効果的である。だが、「実際にそうした授業を実施している大学も多いが十分に社会の期待に応えられているとはいえないのではないか」という問題意識にたどりつ

いた。そして次に、PBL等の課題解決型の授業が十分な効果をあげられていないのはなぜか、十分な効果をあげるためには何をしたらよいのか、という点について考えることとした。そして各大学に共通する問題点として、次のものがあげられた。

- ・ 建学の精神を理解していない
- ・ 学生が自分の将来像（キャリアプラン）を描けていない
- ・ 授業を単なる、単位をとるため、資格をとるための場と考えている
- ・ 授業をつまらなさと感じ、積極的に取り組めていない

## （2）問題を解決するための方策と職員の役割

これらは個別の問題ではない。学生は建学の精神や大学の方針を十分に理解していないため、自分の将来像が描けず、目的意識もなく場当たりに授業に取り組むことしかできなくなってしまう。そして問題の根本にある建学の精神を学生に伝えるのは、流動性の高い教員ではなく、相対的に勤続年数の長い職員の役割である。まず職員が建学の精神、アドミッション・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを理解して、どのような学生を育てるべきなのかというメッセージを学内外に発信し、共有する必要がある。そして教員にはどのような学生を育てるべきか、学生にはどのような将来像を描くべきかを把握してもらおう。このように職員の側から意識改革を行い、教員や学生をリードして、そこから授業やカリキュラムの改善をはじめなければならないという考えにいたった。

## 4. 具体案

学生のキャリア意識や課題解決能力を養う授業案としては、就職活動終了後の先輩やOB・OGを招く「先輩ゼミ」の実施や、企業等と連携し社会にある実際の課題解決に取り組む「課題解決型授業」の実施、というものがあがった。どちらも学外との連携が必要であり、職員の働きが大きく期待されるものである。

## 5. 発表と質疑応答

以上のような結論のもと、3日目に発表を行った。その後の質疑応答で、学内の意識改革の方策について質問があった。もちろん学生や教員の意識といったものはそう簡単には変わるものではない。しかし本講習会のように、職員が真剣に大学や学生のことを考えて話し合い、課題解決のために取り組む姿を見てもらうことによって、徐々にではあるが学生や教員の意識を変えていくことも可能であると考え。特に学生にとって職員とはもっとも身近な社会人のひとりである。その職員が建学の精神のもとで目的意識を持ち、課題解決のために積極的に動ける、魅力的な社会人となっていくことによって、大学の空気も変わり、魅力的な人材作りという大学の役割が果たされていくのではないだろうか。

以上